

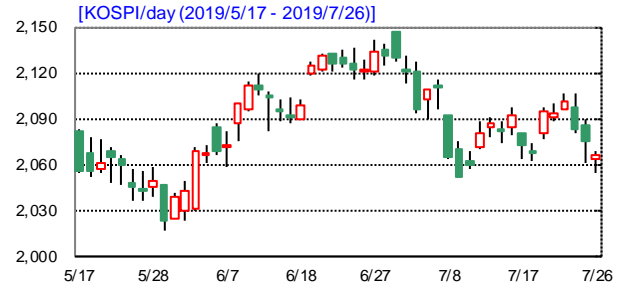


【韓国】 総合指数は週間で1.3%安と反落、今週は国内外イベント相次ぐ

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.3%安と反落。企業業績の悪化、中国や日本との貿易問題を背景に売りが先行した。貿易問題では、中国当局が週明け22日に韓国などのステンレス鋼製品の一部に反ダンピング関税を課すと発表。対日関係では24日に韓国政府が日本に対し、輸出先として信頼する「ホワイト国」から除外しないよう意見書を送ったものの、日本側の姿勢に軟化の兆しがみえない中で対立長期化への懸念が高まった。指数は5営業日中、4営業日が下落。26日には終値ベースで今月10日以来の安値を付けた。今週は神経質な展開か。日本政府は週末にも韓国の「ホワイト国」除外を閣議決定する予定。米FOMCや米中閣僚級協議は結果次第で波乱要因に。国内では7月のCPIやPMIなどの主要経済指標が相次いで発表される。

▼指数チャート

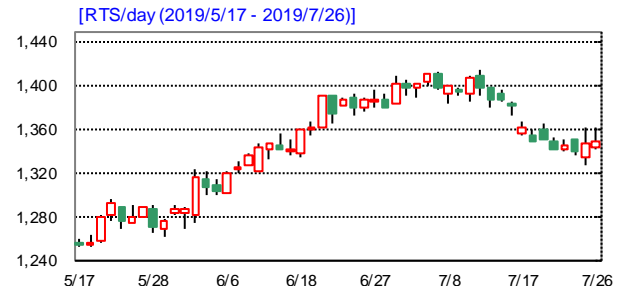


【ロシア】 RTS 指数は0.2%安と3週続落、今週は通貨安を背景に売り優勢か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.2%安と3週続落。米大統領選挙の干渉疑惑やイランでのタンカー拿捕関与疑惑が浮上し、地政学リスクが高まった。週明け22日は、2016年の米大統領選挙における干渉疑惑が米国で再び議論されている事態やイランでのタンカー拿捕へのロシアの関与疑惑の浮上を受けて売り優勢の展開。その後は米中通商交渉再開や原油高などのポジティブ材料と、軟調な欧州経済指標やルーブル安といったネガティブ材料が入り混り、売り買いが交錯した。指数は24日に約1カ月ぶりの安値を更新。後半は割安感で反発したが、週間では小幅安で終えた。個別銘柄ではノリリスク・ニッケル、ルクオイル、ズベルバンクなどの下落が指数を押し下げた。今週は通貨安や地政学リスクの高まりを背景に、売りが継続か。

▼指数チャート



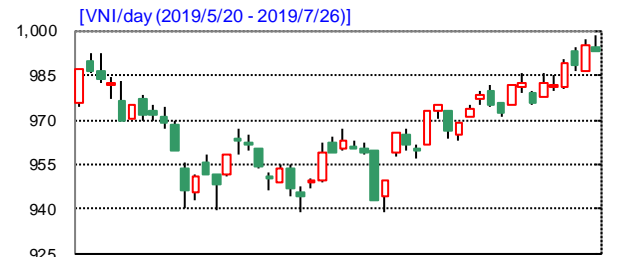
【ベトナム】 ベトナム指数は1.1%高と4週続伸、今週はFOMCでの利下げ幅が

焦点

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.1%高と4週続伸。欧米での利下げ期待が買いを誘い、指数は約4カ月ぶりの高値を更新した。週明け22日は7月の米FOMCでの大幅利下げに対する期待の後退で多くの東南アジア市場が下落する中、VN 指数は横ばいで、相対的に強いパフォーマンスをみせた。その後は米FRBと欧州中央銀行(ECB)による利下げ期待が再度高まった流れで上昇し、指数は25日に約4カ月ぶりの高値を更新。26日はECBが予想に反して政策金利を据え置いたことで小幅に売られたが、週間では1%超の上昇となった。個別銘柄ではホアファットグループ(9.5%高)、ビンググループ(5.3%高)、ビンホームズ(3.6%高)などの上昇が指数を押し上げた。今週

▼指数チャート



本資料は、当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、当社の責任、完全性を保証するものではありません。ここに示したすべての内容は、当社で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。本資料の利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。本資料で記載・掲載している数値および材料などは、会社発表資料のほか各証券取引所、弊社提携先などのデータに基づき作成したものです。

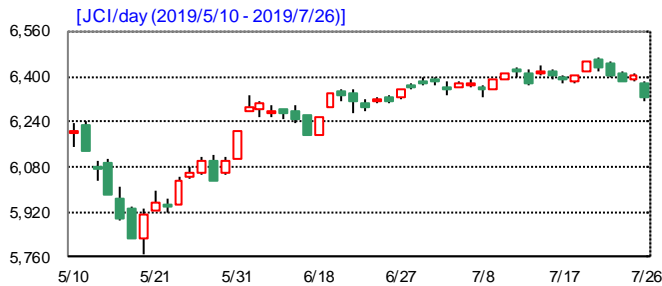


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.0%安、欧州中央銀行の政策金利据え置きを嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 2.0%安と反落。国内の重要イベントが少ない中、外部要因が指数下落を主導した。週初の 22 日は前週末の NY ダウが下落した流れで反落してスタート。その後も買い材料に乏しく 24 日まで 3 日続落した一方、25 日は欧州中央銀行 (ECB) の理事会を目前に控え、政策金利引き下げへの期待感で買い戻された。ただ、26 日は ECB が主要政策金利を据え置いたことが嫌気され、指数は終値で前日比 1.2%安と 1 カ月ぶりの安値を更新して引けている。今週は 1 日に 7 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率が 6 月の 3.3%を下回れば、追加利下げへの期待が高まりそうだ。

▼指数チャート

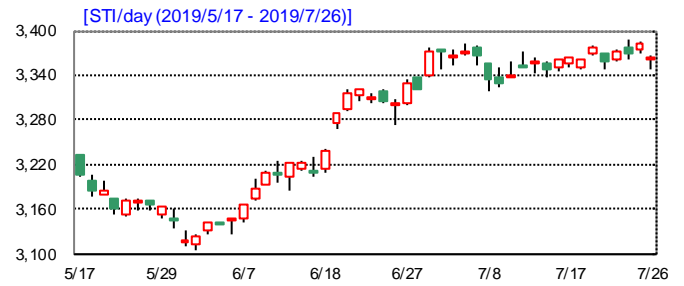


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%安、今週は 2 日に 7 月の製造業 PMI 発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.4%安と反落。一進一退の値動きだった。週初の 22 日は月末に開催される米 FOMC での利下げ幅が 0.25%にとどまるとの見通しが嫌気され、指数は反落。一方、23 日は 6 月のコアインフレの上昇率が前年同月比 1.2%と約 2 年ぶりの低水準となり、金融緩和への期待が一段と高まった効果で反発した。24 日に反落した後、25 日は銀行大手 3 行が指数上昇をけん引したが、26 日は 6 月の鉱工業生産がエレクトロニクス部門の低迷を受け、前年同月比 6.9%減と 15 年 12 月以来の大幅減となった影響で反落している。今週は 2 日の取引終了後に 7 月の製造業 PMI が発表される予定。

▼指数チャート

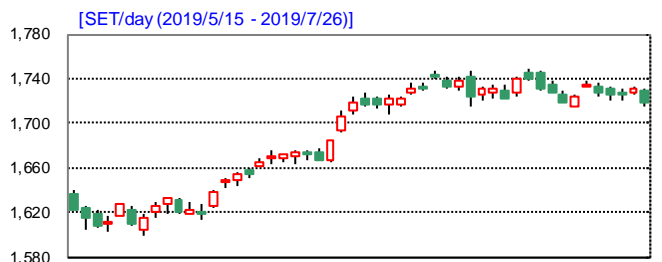


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.0%安、買い材料に乏しく 10 週ぶりに反落

SET 指数は週間で 1.0%安と 10 週ぶりに反落。不安定な値動きが続いた 1 週間だった。22 日は 6 月の輸出額が前年同月比 2.2%減と 4 カ月連続で前年の水準を下回った影響に加え、4-6 月期の決算が減益だった TMB 銀行株の下落も痛手となり、指数は 3 営業日ぶりに反落。23 日は通信株が下げを主導し続落したが、24 日に買い戻されると、25 日も続伸した。ただ、26 日は欧州中央銀行 (ECB) の政策金利据え置きが嫌気され、終値で約 1 カ月ぶりの安値を更新して取引を終えている。今週は 30 日に 6 月の鉱工業生産、1 日に 7 月の CPI が発表される予定。29 日はラーマ 10 世記念日の振替休日で休場となる。

▼指数チャート

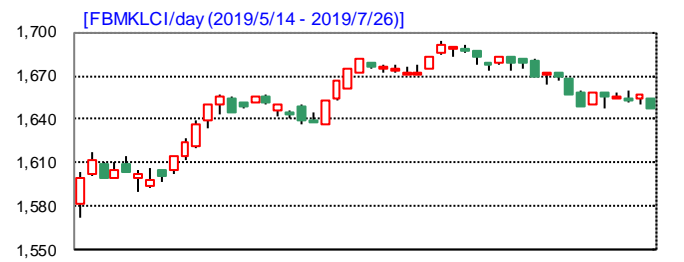


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%安、今週は 6 月の貿易統計に注目

クアラルンプール総合指数は週間で 0.6%安と 3 週続落。一進一退を繰り返しつつ、じりじりと下値を広げた。週初の 22 日は買い材料に乏しく小幅に反落。その後も欧州中央銀行 (ECB) の理事会を控え 25 日まで様子見が続いたが、26 日は利下げ見送りの影響で売られ、終値で 1650 ポイントを割り込んだ。今週は 2 日に 6 月の貿易統計が発表される予定。外部要因では 30-31 日に開催される米 FOMC と同日程で実施される上海での米中閣僚級貿易協議に市場の関心が集まりそうだ。中国の 7 月の公式の製造業 PMI と財新製造業 PMI が市場予想を上回れば好材料。30 日は国王戴冠式のため休場となる。

▼指数チャート



本資料は、当社が信頼できる情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示したすべての内容は、当社で入手した資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。本資料の利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。本資料で記載・掲載している数値および材料などは、会社発表資料のほか各証券取引所、弊社提携先などのデータに基づき作成したものです。

本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。